

## 平成31年度 学校評価実施報告書

学校名（京都市立加茂川中学校）

<b>教育目標</b>	多様な他者と共に生き、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高め、豊かな心をもった生徒を育成する。
<b>年度末の最終評価</b>	
自己評価	<b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的な授業の実践、また、生徒会活動や行事の取組、教科指導以外の学び合える場を設定することで目標は達成できたと考える。</li> <li>・前年度に引き続き、授業のめあてや目標を明確にした授業、生徒がより主体的・対話的に学べる教科指導、道徳教育の実践に努めたことは評価できる。</li> <li>・教職員間の情報共有を意識し、生徒指導委員会や総合育成支援委員会など、また、若手道場の継続的な実施により生徒理解や若手教員のスキルのアップに努めたことで目標の達成に近づけた。</li> <li>・保護者からの信頼という面では、昨年度に引き続き、個人の意見・要望を学校組織としてどう対応していくかが課題である。</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校目標は今年度もおおむね達成できているととらえている。</li> <li>・教職員の取り組む姿勢や教育活動に感謝している。</li> <li>・概ね生徒も落ち着いて学習に迎えている。</li> <li>・学校だよりや学級・学年通信、ホームページなどで学校の取り組みを紹介しており、学校の取組がわかりやすい。</li> </ul>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年10月21日	学校運営協議会
最終評価	令和2年2月28日	学校運営協議会中止のため理事による個別のやり取り

## (1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

<b>重点目標</b>	主体的・対話的で深い学びをとおして、社会で生きて働く力の育成
<b>具体的な取組</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①授業において、「本時の目標」を提示し、振り返りを徹底するなど、学力の定着を確実なものにしていく。</li> <li>②基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、知識・技能を活用できる力を育てる。</li> <li>③言語活動の充実をめざし、各教科の学習において言語活動の充実を図り、コミュニケーション能力を育成する。</li> </ol>

④学ぶことの意義や有用性を実感する機会を持たせ、社会とのつながり・接続を実感できる教科指導の充実を図る。
⑤問題解決的な学習や探究活動の充実を図り、各教科の主体的な実践による教科指導の充実を図るとともに、全国学力学習状況調査等のデータを学力分析に継続して活用する。
⑥グローバル化時代における実践的な英語力の育成、小学校との英語教育の連携を図る。
⑦LD 等、支援の必要な生徒一人ひとりの個別の指導計画を作成し、個々の学習課題の明確化を図る。
<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の言語活動の充実の様子の変容の把握</li> <li>・研修会での進捗状況，課題，成果の確認</li> <li>・工夫された授業を行っているか</li> <li>・各種学力データの分析</li> <li>・生徒アンケート「授業の中で満足感や達成感を持つことができるか」</li> <li>・教職員アンケート「発問や板書，教材などわかりやすく工夫した授業を行っているか」</li> </ul>

## 中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の中での満足感や達成感」については、前年度の 89.5%から 85.0%に下降している。（教員 92.9%）</li> <li>・「わかりやすく工夫した授業」では、92.9%の教員が努めていると回答している。</li> </ul>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のめあて提示については 100%が行っている。</li> <li>・研究主任を核として、研究発表を契機としての研修会が組まれており組織として動いている。</li> <li>・家庭学習については昨年度より 2ポイント上昇している。（66%）</li> </ul>
	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確プロや定期テストなどの予習復習については、学年を中心として強く働きかけている。</li> <li>・「ノート点検」というより、「考えて書き込む」「創るノート」という視点を大切にし、いかに活用するかということを念頭に置いて取り組む。</li> </ul>
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> 生徒アンケート「家で自主的に学習や読書をしているか」
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全般的に落ち着いて生徒は学習に取り組んでいる。</li> <li>・図書室の利用状況を活性化させる必要がある。また、中学校時代に「読書の大切さ」をもっと指導してほしい。</li> </ul>

## 最終評価

<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「授業の中での満足感や達成感」については、前年度の 85.0%から 84.8%に上昇している。（教員 95.2%）</li> <li>・「わかりやすく工夫した授業」では、97.0%の教員が努めていると回答している。</li> </ul>	
自己	<div>分析（成果と課題），重点目標の達成状況，次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・継続して，確プロや定期テストなどの予習復習については，学年を中心として強く働きかけた。</li> </ul>

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種テストの分析を行うなど、教科会を充実させ、授業改善に努めた。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びを研究の主題として教科指導力の向上に努めた。</li> <li>・生徒会活動や行事の取組をととして、教科指導以外の学び合える場を意図的に設定することで、豊かな人間関係づくりに努めた。</li> <li>・言語活動や探究活動の充実に向けて、ポスターセッションの取組を小中連携も含めて取り組んだ。</li> <li>・来年度に向けて、主体的・対話的で深い学びの観点から「教科の主体的」な研究が推進できるよう継続して進めている。</li> <li>・図書館の利用や読書習慣の定着について、改善しているものの、図書の貸出冊数が少ないことや教科として活用が不十分である。</li> </ul>
学校関係者評価	<div data-bbox="225 600 564 633" data-label="Section-Header"> <h4>分析を踏まえた取組の改善</h4> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年間を通して落ち着いて生徒は学習に取り組んでいる。</li> <li>・テスト前の放課後学習会・3年生の受験前の11月から取り組んだ土曜学習などの取組は効果的であった。</li> </ul>

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	主体的に判断・行動し、他者とよりよく生きようとする生徒の育成
具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>①道徳教育推進教師を中心に道徳教育の充実を図る。道徳の時間は、各時間のねらいを明確にし、指導の充実を図ると共に、道徳における記述による「評価」についてこれまでの取組の成果を活かし、評価が生徒の心の成長に有効に働くものとなるよう研鑽を深める。</li> <li>②生徒自ら「心の居場所」を創出できるように、集団のよさを生かした学級づくりや生徒会活動、行事、部活動などの場を積極的に設定し、豊かな感性・情操を育む教育を充実させる。</li> <li>③規範意識の育成に努め、規律ある生活習慣やルールを守る態度の育成を推進する。</li> <li>④新たに作成した「学校いじめの防止等基本方針」を教職員一人ひとりが常に意識し子どもを見守るとともに、不登校・不登校傾向を示す生徒に対して学校体制で取り組む。</li> <li>⑤支え合い高め合う集団づくりの推進に向け、スクール・カウンセラー、関係機関との連携を継続し、保護者の協力・理解を得るとともに、支援体制の一層の充実に努める。</li> </ol>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳における自己評価シート</li> <li>・決まりや約束を守って生活しているか</li> <li>・人間関係や役割の大切さを感じているか</li> <li>・生徒アンケート「学級や集団づくりを通して、人間関係や役割の大切さを感じているか」</li> <li>・教職員アンケート「生徒のよいところを認めて適切に評価しているか」</li> </ul>

## 中間評価

自己評価	<b>各種指標結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間関係や役割の大切さ」については、98% の生徒が大切だと考えている。(2 ポイント上昇)</li> <li>・「生徒の良いところへの評価」については、93.3%ができていていると考えている。(1.0 ポイント上昇)</li> </ul>
	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳については、1 時間 1 時間の授業は勿論、評価を意識して取り組んでいる。</li> <li>・生徒会や学級での活動について、生徒と教職員の意識に若干の差がある。生徒の満足度が低い。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価を意識した道徳授業を継続していく。</li> <li>・生徒会の取組についても、従来やっているから、ということではなく、教師が常にねらいを再確認することとともに生徒への意識づけを行う。</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> 生徒アンケート「他者への思いやりの心を持つことは、とても大切だと思うか」
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登下校の場などを見て感じることでほとんどの子が礼儀正しく挨拶等してくれるので清々しい気持ちにさせられる。半面、道路に広がって歩くなど、公德心を育てられていない生徒もいる。</li> <li>・教育活動についてどんなことをしているかなどどんどん発信して欲しい。</li> </ul>

## 最終評価

自己評価	<b>中間評価時に設定した各種指標結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間関係や役割の大切さ」については、97.3% の生徒が大切だと考えている。(0.7 ポイント下降)</li> <li>・「生徒の良いところへの評価」については、100%ができていていると考えている。(6.7 ポイント上昇)</li> </ul>
	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳については、年間指導計画に沿って評価を意識して取り組めた。</li> <li>・生徒会や学級での活動について、生徒と教職員の意識に若干の差がある傾向は年間を通して変わらなかった。教員評価より生徒の満足度が低いのは今後の改善点である。</li> <li>・今年度も、休日参観や、年間 3 回の公開授業に「道徳」を位置づけ、指導案作りやねらいの共有など、すべての学年で前向きに取り組むことができた。</li> <li>・今年度も、いじめについては、各種アンケートによる生徒の実態の調査や、個別の教育相談を継続して持つことができた。同時に全校集会の場で「いじめ対策委員会」の存在やメンバーを伝え、生徒が相談しやすい環境づくりに努めた。</li> <li>・規範意識の育成や規律ある生活習慣やルールについては、生徒指導委員で毎週情報共有することができた。生徒指導委員会にはスクールカウンセラーにも同席いただき、積極的に発言していただいた。</li> <li>・すべての事案が解決しているわけではなく、一層の働きかけが必要である。</li> <li>・集団の良さを生かした取組の一つである部活動については、休養日を設定することができ、また活発に活動することもできたが、活動のあり方については、根本的に考えていかなければならない。</li> </ul>

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も継続して、評価を意識した道徳授業を継続していく。</li> <li>・粘り強く、生徒会の取組についても、従来やっているから、ということではなく、教師が常にねらいを再確認することとともに生徒への意識づけを行う。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・休日参観や、年間3回の公開授業にできるだけ地域からも参加したい。</li> <li>・すべての事案が解決しているわけではないので、より一層の働きかけをお願いしたい。</li> </ul>

### （３）「健やかな体」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>生涯にわたって心身共に健康な生活を営み、安全で活力のある生活、望ましい生活習慣を実践できる生徒の育成</p>	
<p>具体的な取組</p> <p>①体を動かすことが情緒面や知的な発達を促すことを理解し、体育学習や運動部活動はもとより、朝の時間帯を利用した取組や本校独自の取組など教育活動全体を通して、運動に触れる機会を積極的に設ける。</p> <p>②朝の健康観察や保健室の利用状況の把握などから、一人ひとりの子どもの健康課題を明確にし、生涯にわたって心身ともに健康な生活を営む健康自立のための指導の推進を図る。</p> <p>③食に関する指導の充実を図り、食生活が心身の健康に大きくかかわることを理解し、成長期にふさわしい食生活を実践できるようにする。</p> <p>④生涯を通じて安全で活力のある生活を送るための基礎を培うため、規範意識の向上に向けた取組、望ましい生活習慣を自ら実践する力を育てる取組の充実を図る。</p> <p>⑤地域防災の拠点として、人と人とのつながりを意識した安全教育・防災管理の継続を図る。</p>	
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育、部活動の充実</li> <li>・保健室来室状況等の調査</li> <li>・避難訓練等の生徒感想文</li> <li>・生徒アンケート「部活動をがんばっているか」「学校は災害に対して安全なところだと思うか」</li> </ul>	

### 中間評価

<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動については90%の生徒が頑張れる場があると考え、教職員も力を入れている。</li> <li>・安全対策についてはいずれの項目でも概ね対策は行えている。</li> <li>・挨拶については、部活動での指導も相まって高い数値が見受けられる。</li> </ul>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内大会はもとより府下大会、近畿大会、全国大会にも個人や団体が出場できた部がある。</li> <li>・基本的には危険区域はない。（細かいところは順次修理修繕している）</li> <li>・避難訓練も教職員でしっかり共通理解して行えた。</li> </ul>

	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係作りのもとである、挨拶の重要性もあらゆる機会を通じて取り組んでいきたい。</li> <li>・安全については、常に点検を心掛けしていく必要がある。</li> <li>・避難訓練について、今年度も不審者について取り組んだ。</li> </ul>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>生徒アンケート「部活動でがんばれる場があるか」</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや学校だよりでは部活動だけでなく、さまざまな情報が網羅されているので楽しく読ませてもらっている。</li> <li>・花などが校内にたくさんあり心が和む。協力することがあれば学校運営協議委員でもさせていたきたい。(10月23日に2回目実施)</li> </ul>

#### 最終評価

	<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動については 87.9%の生徒が頑張れる場があると考え、教職員も力を入れている。</li> <li>・安全対策についてはいずれの項目でも概ね対策は行えている。</li> <li>・挨拶については、生徒会での活動も相まって高い数値が見受けられる。</li> </ul>
	<p><b>自己評価</b></p> <p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内大会はもとより府下大会、近畿大会、全国大会にも個人や団体で出場できた部がある。</li> <li>・基本的には危険区域はない。(細かいところは順次修理修繕している)</li> <li>・避難訓練も教職員でしっかり共通理解して行えた。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年間を通して人間関係作りのもとである、挨拶の重要性も来年度もあらゆる機会を通じて取り組んでいきたい。</li> <li>・安全については、常に点検を心掛けしていく必要がある。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや学校だよりでは部活動だけでなく、さまざまな情報が網羅されているので楽しく読ませてもらっている。</li> <li>・花などが校内にたくさんあり心が和む。</li> </ul>

#### (4) 学校独自の取組

<p><b>重点目標</b></p> <p>小中9年間を中核として、豊かな学びと育ちを保障し、生き方探究教育の視点に立った社会的・職業的自立を果たす児童生徒を育成する。</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中一貫の「学校運営協議会」を組織し、充実に努める。</li> <li>○道徳・教科指導を中心とした小中合同主任研修会・公開授業を実施していく。</li> <li>○小中教職員の分掌ごとの連絡会を継続して実施し、教職員の連携と情報交流を進める。</li> <li>○小学生の中学校体験や児童会・生徒会の交流等を行い、小中の接続がスムーズにできるようにする。</li> <li>○地生連事業の小学生の中学校部活動体験や「かもがわコンサート」に協力していく。</li> </ul>

<p>○小中で標語コンクールを行い，加茂川中学校区の児童生徒の共通目標を共有する。</p> <p>○小中学校の互いの活動を発信し，成長への希望につなげていく。</p> <p>○小中学校で共通の「学習規律」の作成，共通の「掲示物」・「コミュニケーションカレンダー」等の作成を進める。</p>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携連絡会の実施回数</li> <li>・生徒の感想等による変容の把握</li> <li>・共通の目標の設定・共通の掲示物の作成</li> <li>・生徒アンケート「自分のことを大切にしているか」</li> <li>・教職員アンケート「人への思いやり（小中連携も含めて）は大切だと思っているか」</li> </ul>

## 中間評価

	<p><b>各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切に」は，92%の生徒ができている。（3ポイント上昇）</li> <li>・「生徒は人への思いやりを大切に思っているか」について2%があまり思っていないとしている。（1ポイント下降）</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育は，様々な場面で，特に夏季休業中合同研修に加えて管理職，教務で常に行っており相互理解が深まってきている。</li> <li>・共通の掲示物（学習に関わるもの）を5月に作成できた。</li> <li>・休日に「部活動探検隊」と称して，校下の4小学校の5，6年生が部活動体験を中学生の下で行った。「お兄さんお姉さんに優しく教えてもらって不安がなくなった」「中学校に早く行きたくなった」など肯定的な感想が多く出た。</li> <li>・「かもがわコンサート」においては，小学校，幼稚園，地域保護者PTA含めての活動を行った。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携は，研究主任，生徒指導主任までは広げていきたい。</li> <li>・地域生徒指導連絡協議会の取組については温故知新の精神でやっていきたい。</li> </ul> <p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>生徒アンケート「進んであいさつをしているか」</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動探検隊のような取組は，見学だけで終わっている学校も多い中，休日にPTAや先生方にも出てきていただいて有り難い。</li> <li>・「かもがわコンサート」については，19回目ということで伝統になってきている。お年寄りも楽しみにしている行事の一つなので地域の力を結集して継続してほしい。</li> </ul>

## 最終評価

<p><b>中間評価時に設定した各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分を大切に」は，92.9%の生徒ができている。（10.7ポイント上昇）</li> <li>・「生徒は人への思いやりを大切に思っているか」について2.7%があまり思っていないとしている。</li> </ul>
--

(1.1 ポイント下降)	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育は、夏季休業中合同研修に加えて、年間を通しての管理職、教務で情報交換を常に行っており相互理解が深まってきている。</li> <li>・共通の掲示物（学習に関わるもの）を今年度も作成できた。</li> <li>・休日に「部活動探検隊」と称して、校下の4小学校の5, 6年生が部活動体験を中学生の下で行った。「お兄さんお姉さんに優しく教えてもらって不安がなくなった」「中学校に早く行きたくなった」など肯定的な感想が多く出た。</li> <li>・「かもがわコンサート」においては、小学校、幼稚園、地域保護者PTA含めての活動を行った。</li> <li>・道徳教育を中心に小中合同研修会を実施し、互いの取組内容の共有や情報交換をしたい。</li> <li>・中学校体験（授業・生徒会活動・部活動）も継続して取り組む。</li> <li>・管理職をはじめとする分掌ごとの連絡会を継続する。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携は、研究主任、生徒指導主任までは広げたが回数を増やしていきたい。</li> <li>・地域生徒指導連絡協議会の取組については、地域も含めその趣旨を関係諸団体がその趣旨を理解したうえで参加できるようにしたい。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・部活動探検隊のような取組は、休日にPTAや先生方にも出てきていただいて有り難い。</li> <li>・「かもがわコンサート」は来年度から見直す。</li> </ul>

#### （５）業務改善・教職員の働き方改革について

<p><b>重点目標</b></p> <p>年間計画の中で重点的に取り組む内容を計画的に行い、生徒の活動と保護者との信頼関係を担保する中で、業務改善・働き方改革について。</p>
<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○年間計画を見直し、行事の精選を行う。</li> <li>○センターサーバーの整理と中堅・ベテラン教員の中核的な働きによる、これまでのノウハウを生かしたチームでの業務の遂行を行う。</li> <li>○見通しを持った計画的な業務の遂行。</li> <li>○留守番電話の設定</li> <li>○部活動ガイドラインの順守と長期休業中の部活動休業日の増日。</li> <li>○学校運営協議会やPTAの協力を得ながら教職員の働き方改革について家庭や地域に周知し理解を得る。</li> </ul>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度の年間指導計画作成過程における</li> </ul>



- ・センターサーバーの整理
- ・3ヶ月先までの行事計画の提示。
- ・留守電の時間を19:00に設定する。
- ・長期休業中の部活動休止日の増日
- ・PTA広報誌などでの教員の働き方改革の周知

## 中間評価

各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校では各分掌や学年間、教師間での連携や情報交換が円滑に行われている」が85.5である。</li> <li>・留守番電話をおおむね19:00に設定できている。</li> <li>・「3ヶ月先までの行事計画の提示」は100%できた。</li> </ul>	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現可能な範囲で「業務改善・教職員の働き方改革」を進め、全体的に超過勤務は減少傾向にあるが、まだまだ、超過勤務が月80を超える教員が多くいる。</li> <li>・全体を通して、超過勤務が45時間を下回することは難しい状態である。</li> </ul>
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超過勤務が月80時間を超える教職員を5人以内にする。</li> <li>・超過勤務が月120時間を超える教職員をださない。</li> </ul>
	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもに元気な状態で臨めるよう、地域も協力できるところは協力していきたい。</li> </ul>

## 最終評価

中間評価時に設定した各種指標結果	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「本校では各分掌や学年間、教師間での連携や情報交換が円滑に行われている」が91.5%である。</li> <li>・留守番電話をおおむね19:00に設定できている。</li> <li>・「3ヶ月先までの行事計画の提示」は100%できた。</li> </ul>	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実現可能な範囲で「業務改善・教職員の働き方改革」を進め、全体的に超過勤務は減少した。しかし、まだ、超過勤務が月45を超える教員が多くいる。</li> <li>・全体を通して、超過勤務が45時間を下回することは難しい状態であるが、今後も業務の見直しをし、繁忙期以外は45時間を全教職員が下回れるよう努めていきたい。</li> </ul>
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域や保護者にも理解を得ながら業務の縮減を考える。</li> <li>・職員打合せを夕方の時間に設定したい。</li> <li>・</li> </ul>

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"><li>・学校の働き方改革を地域に周知していく。</li><li>・教員を志す人が、憧れるような環境であるようにしていくためにできることを考えていきたい。</li></ul>